

## 令和2年度 第1回高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 令和3年2月24日（水）午後3時30分～午後5時20分

II 場所 高岡市役所3階 庁議室

III 出席者 高岡市長 高橋 正樹

高岡市教育委員会

教育長 米谷 和也

教育委員 長谷田 祐一

教育委員 森 美和

教育委員 長尾 順子

教育委員 土田 一清

事務局関係

総務部

総務課長 上森 智美

総務課副課長 釣 和洋

教育委員会事務局

教育次長 杉森 芳昭

教育次長・学校教育課長 杉山 智充

参与 川辺 勝治

教育総務課長 中保 哲憲

生涯学習・文化財課長 大野 洋靖

学校教育課主幹・副課長 津田 久

学校教育課指導主事 豊原 正貴

教育総務課副課長 江尻 典世

生涯学習・文化財課副課長 窪田真寿美

教育総務課係長 水上 暁

IV 傍聴者 0名

V 協議の概要

1 開会

・市長あいさつ

## 2 報告事項

- (1) 学校の再編統合の進捗状況について
- (2) G I G Aスクール構想の進捗状況について
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止への取り組みについて

### 【市長】

学校再編については、令和3年度予算で、五位中学校区統合小学校の整備事業や高陵中学校区及び高岡西部中学校区の小中一貫校の整備事業に係る予算を計上し、取り組みを進めている。G I G Aスクール構想は、コロナが1つの契機となり、学校現場のICT化が進み、全児童生徒に学習専用端末が配付され、これから学習が進んでいく。ハード面、ソフト面での教育改革が進んでいる。

### 【長尾委員】

先日、国吉義務教育学校の授業を見た。1年生から英語の授業を受けていた。通常は、民間の塾などに行かないと英語の授業を受ける機会がないので、うらやましいと感じた。

学校運営協議会について、これまでの学校評議員会との違いについて校長からは、再編統合にかかる協議で様々な話し合いを行ってきたこともあり、協議会ではいろいろな意見が聞けることがいいと言っていた。

小中一貫により小学校・中学校の生徒や先生の意識が変わったとも聞いた。

### 【土田委員】

ここ1、2年の高岡市の教育のスキーム作りは、県内でもトップレベルだと感じている。小中一貫教育のスキームができ動き出しているし、学習専用端末の導入や遠隔授業等のICTの教育も進み、新しい教育に向かっていると感じる。ここまで作り上げる大きな土台は、地域の方々のコミュニケーションである。経済界、PTAや自治会長から、高岡市の教育がいいという話を聞く。コミュニケーションがとれていることが土台になっていることが大きい。

### 【森委員】

国吉義務教育学校の授業を見たが、中学校の先生が小学生の反応がよく嬉しかったと言っていた。先生もやる気の向上や教えがいがあるのではないか。子どもたちも小学校の教科書にしか載っていない内容以上のことを中学校の先生に教えてもらうことができる。また、地域の方々が学校活動に積極的に参加している。

富山県初の義務教育学校がすごくいい形でスタートしていることが嬉しかった。

### 【長谷田委員】

コロナの影響もあり、G I G Aスクール構想が早期に進んでいるが、一方で、親は、学習専用端末でどういう授業がされているのか分からないと思うので、学習専用端末を使った授業参観を開催するなどして、親の理解を深めていくことも必要ではないか。

今後小中一貫が予定されている学校について、将来的に義務教育学校にするのか、踏

み込んで考えていく必要があるのではないか。

## 2 協議事項

### (1) 人生 100 年時代にあって、地域の絆でコロナ禍を乗り越えるこれからの市立公民館の運営について

#### 【長尾委員】

複数の公民館を兼務している公民館指導員がいることで、他の公民館との情報交換や連携ができるので、兼務している公民館指導員の存在は公民館活動をしている者にとっては大変ありがたい。

西五位公民館の事例のように、これまで無関心だった人が公民館に足を運び、便利なところとじてもらえるようになることが大事である。石堤地区では、旧小学校に公民館が移転することで、放課後児童クラブとのいい相乗効果が生まれ、互いに運営ができるのではないかと期待している。

#### 【土田委員】

報告のあったスキームで進めていくことには賛成である。その上で、お話ししたい。

①公民館を利用したことがないという人が多いのが問題と感じる。②町内の公民館との使い分けをどうするのか、③公民館における人員配置や業務内容等の内部のことについて透明化が必要と感じる。

また、市立公民館に何でも相談できる駆け込み寺のような機能があれば、身近なものになり、もっと利用してもらえるのではないかと。

#### 【森委員】

町内の公民館の行事と市立の公民館の行事が重なった場合、慣れ親しんだ場所で、慣れ親しんだ人と活動したいと思う人が多いと考える。昔と違い、今の人は住んでいる地域でコミュニティを作るといよりも、やりたい趣味やスポーツ、関心事による集まりでコミュニティを作っている。そのため、公民館もその地域だけでコミュニティを作るのではなく、ある時は地域外に発信をするなどして、地域外でコミュニティを作り、それを地域に持ち帰り、活動を展開していくということも重要ではないか。今までの地域の枠を取り払い、もっと大きい地域の枠で公民館活動ができないか考えてほしい。

#### 【長谷田委員】

公民館は、月曜日から日曜日まで時間帯にもよるが、結構使っているようだ。特に、日中に高齢者や女性が使っているが、若い人の利用は少ない。若い人が参加できる夜間の活動があれば、もう少し利用が増えると思う。

これからの公民館運営について、「人生 100 年時代に合って地域の絆でコロナ禍を乗り越えるこれからの市立公民館の運営について」とのタイトルで方針をまとめているが、タイトル中の「コロナ禍を乗り越える」が、コロナを乗り越えるための公民館運営というふうにも捉えられると思う。表現を変えてもよかったのではと思う。

**【市長】**

「コロナ禍を乗り越える」とは、どういう意味か。

**【教育長】**

コロナは喫緊の課題だが、一番大きな課題は、コミュニティをどう作っていくかということである。

食生活改善推進協議会の方は、コロナの影響で高齢者が家に閉じこもり、足腰が弱り、家から出てこれなくなってくるのではないかと心配している。弁当を作って配付するなどの活動を行いたい、コロナの影響で活動できない。コロナによる感染よりも、2次的影響で、公民館に来ていた人の足が遠のき、身体的不調を発することも実際起きており、大変心配している。タイトルには、コミュニティを作りながら一緒にコロナを乗り越えていこうというメッセージを込めたものである。

**【長谷田委員】**

了解した。

**【市長】**

市では13の地区連絡センター併設の公民館と単独公民館の関係について整理できないかということで、先行的に公民館活動、地域活動、行政活動をどうしていけばいいのか、具体的に取り組みを進めている。まずは人材からで、地域に必要な人材は地域で人材を発掘しては、ということをして令和3年度に進めていきたい。この報告書と行政が進めていこうとしていることは一致している。

公民館活動は、かつては高齢者の生きがい対策の要素もあったが、地域で子どもを育てる場であったり、公民館活動と地域活動が融合することで地域の活力が生まれることにつながっていけばいいと思う。

**(2) 地域部活動の推進について**

**(3) 不登校児童生徒等の今日的な課題について**

**【長谷田委員】**

児童生徒が少ないことで校区別で部活動などが成り立たないこともあるので、いくつかの小学校単位や市で1つの単位でもいいので部活動が成り立つようにやっていける体制づくりは大事であり、積極的に進めていただきたい。学校の部活動とクラブチームは目的が違うので整合性を取りながら進めてほしい。

不登校の理由はそれぞれ違うが、ICTを活用して勉学に励みたいという児童生徒にとっては有意義な方法であり、個々に応じてやっていただければ問題ない。

**【森委員】**

教員の労働時間を削減するために地域部活動に移行するのではなく、子どもたちが目標

に向かってやっていこうということに対して、大人や地域が協力するということを主に高岡モデルの地域部活動を作っていただきたい。

**【土田委員】**

教員の働き方改革と少子化による児童生徒の減少で地域部活動をどうしていくかという問題である。市のホームクラブがないと、これらの問題も解決できないのではないかと。

**【長尾委員】**

地域部活動は、受け皿、人材面、安全面、指導面、責任の所在、資金など、課題が多い改革であるが、子どもたちの将来を考えると取り組まないといけない改革だと思う。子どもたちにとっては、自分の放課後をどう過ごすか選択できるいい機会である。

不登校の児童生徒が、民間団体・民間施設に通っている、あるいは、ICTやオンラインで勉強している場合は、その努力を認めるべき。不登校の児童生徒が、必死に病気と闘ったり、自分の居場所を見つけようとしているのであるから、出席の扱いにすることで応援できたらいい。

**【市長】**

子供たちの選択をできるだけ実現できるようなスキームを教育委員会と地域で作ってほしい。

地域部活動のこの後の手順は。モデル校を作るのか。

**【教育長】**

まずは、モデル校を決める。モデル校で実践していく中で見えてくる課題を修正して各学校に広げていくこととしている。

**【市長】**

子どもたちにとって達成感のある放課後活動の在り方を実践的に検討していただきたい。

不登校の問題についてだが、子どもたちの個性は尊重されるべきと考える。不得意なことを問題にするのではなく、これならできる、これなら負けないということを大事にする肯定的な捉え方が大切。先生たちにもそれぞれの子どもたちの状況に応じた対応、対策を考えていただきたい。

以 上